

道 徳 科

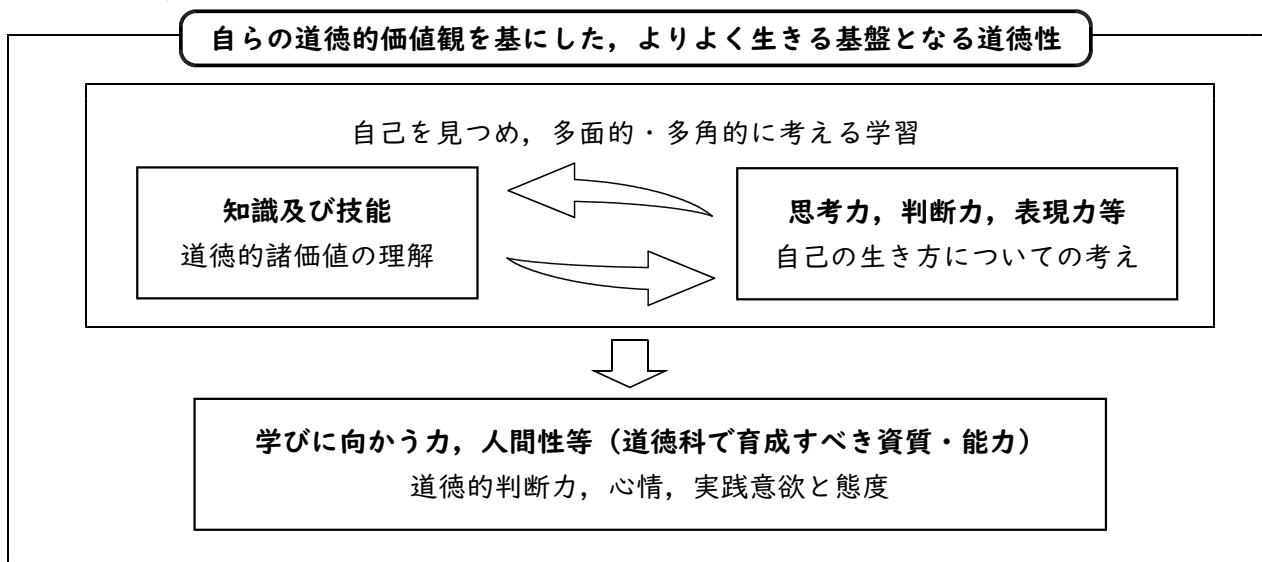
道 徳 科 部 桑 原 和 馬 内 田 圭 祐

研究協力者 山 崎 雄 介

I 道徳科における「社会に変革を起こす子ども」について

学習課題に対する考えを他者に伝えたり、質問をしたりして、他者の学習課題に対する考えを多面的・多角的な考えにできる子ども

本校の学校教育目標「つよく ただしく かしこく」を具現化した児童の育成のためには、各教科等の学習指導要領を基に、本校の児童の実態を踏まえて捉えた資質・能力を育むことが必要である。道徳科の問題解決的な学習では、道徳的諸価値の理解と自己の生き方についての考えを基に、自己を見つめ、多面的・多角的に考える学習を通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。この学習を6年間通じて行い、本校で捉えた資質・能力である「自らの道徳的価値観を基にした、よりよく生きる基盤となる道徳性」を育むことを目指す。この道徳性と、道徳科の問題解決的な学習の過程の具体は、以下のとおりである。

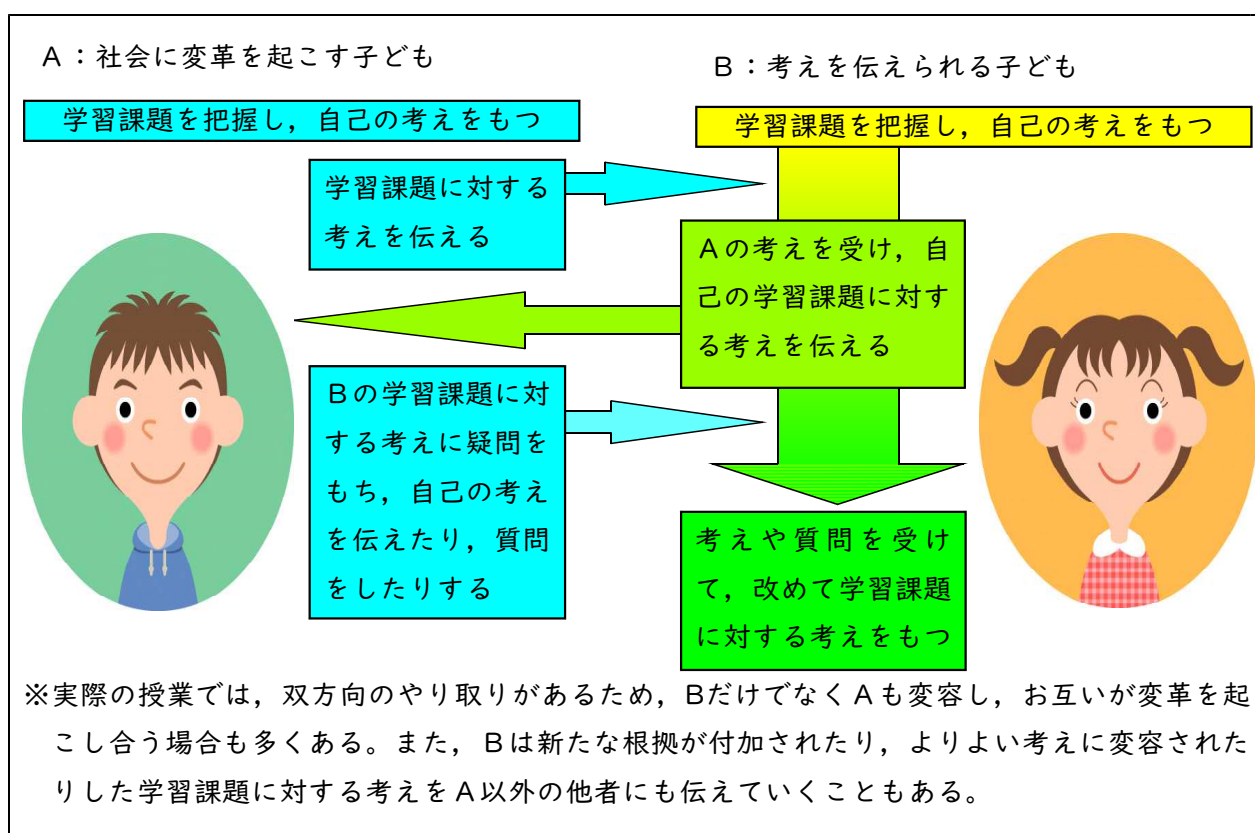


<「自らの道徳的価値観を基にした、よりよく生きる基盤となる道徳性」についての三つの柱>

過程	学習活動
導入	生活経験を想起する
	学習課題を把握する
展開	学習課題の解決に向けて話し合う
終末	学習課題の解決をし、これからしていきたいことについて考える

<本校道徳科の問題解決的な学習の過程>

全体研究を踏まえ、道徳科における「社会に変革を起こす子ども」を「学習課題に対する考えを他者に伝えたり、質問をしたりして、他者の学習課題に対する考えを多面的・多角的な考えにできる子ども」と具体化した。道徳科の問題解決的な学習において、まず、児童は本時に扱う道徳的諸価値に関わる生活経験を想起する。次に、自分や友達、教材文の登場人物の生き方を比較しながら、問題意識をもち、学習課題を把握する。そして、その学習課題の解決に向けて、自己の考えをもち、友達や教師と話し合う。最後に、友達や教師と話し合ったことを基に、学習課題に対する考えを改めてもつことで自分なりに学習課題を解決し、これからしていきたいことを考える。この中で、児童からは、学習課題に対する自己の考えを他者に伝えたり、他者の考えに対して自己の考えを伝えたり、質問をしたりする姿が見られた。そして、このような関わりによって、学習課題に対する考えに新たな根拠が付加されたり、よりよい考えに変容されたりしていくことができた。そして、このような姿が繰り返し現れることで、児童は、学習課題に対するより納得する考えをもつことができた。この姿は、道徳科における「社会に変革を起こす子ども」に相当する姿だと考えた。



<「社会に変革を起こす子ども」と考えを伝えられる子どもの関係>

また、本研究で捉えた「学習課題に対する考えを他者に伝えたり、質問をしたりして、他者の学習課題に対する考えを多面的・多角的な考えにできる子ども」の姿は資質・能力の三つの柱が相互に関係し合うことで活性化している姿となり、道徳科の問題解決的な学習の中で、上記のような姿が現れることを積み重ねることにより、本校道徳科で捉えた資質・能力を育成することができる。

2 道徳科における「社会に変革を起こす子ども」の姿が現れるための学習指導の工夫

これまでの本校道徳科の研究や実践の中で、「学習課題に対する考えを他者に伝えたり、質問をしたりして、他者の学習課題に対する考えを多面的・多角的な考えにできる子ども」は、「自己の生き方に対する考え（自己の学習課題に対する考え、その考えの基となる道徳的価値観）」「他者の生き

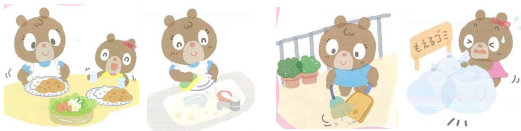
方に対する考え（他者の学習課題に対する考え、その考えの基となる道徳的価値観）」などの情報活用に長けていた。なお、道徳的価値観は、「これまでの道徳科での学習経験、他教科等の学習経験、普段の学校生活や行事での生活経験、家庭での生活経験」などが根拠となっていることが多い。情報活用に長けている児童は、学習課題に対する自己の考えが一面的であることを認識することができていた。一方で、自己の考えに固執してしまうあまり、次のような姿も見られた。

・学習課題の解決に向けて話し合う際に、学習課題に対する自己の考えが一面的であることを認識することができなかった。【情報の吟味】

そこで、道徳科の学習の中で「学習課題に対する考えを他者に伝えたり、質問をしたりして、他者の学習課題に対する考えを多面的・多角的な考えにできる子ども」の姿が現れるように、「情報の収集」を重視し、学習指導の工夫を行うこととした。

一覧にした画像をもとに自他の学習課題に対する考えを比較する機会の設定

「学習課題に対する考えを他者に伝えたり、質問をしたりして、他者の学習課題に対する考えを多面的・多角的な考えにできる子ども」の姿が現れるためには、他者の考えのよさや自分の考えの不十分さに気付けることが欠かせない。そこで、一覧にした画像をもとに自他の学習課題に対する考えを比較する機会を設定する。この学習指導の工夫では、自他の学習課題に対する考えを見合う。その際、タブレットの「共有」の機能を用いることで、多様な他者の考えに触れ、自己の考えが一面的であることを認識することができるようになる。そして、自己の考えを再考するきっかけとなり、自己の考えを多面的・多角的にすることができる。なお、自他の考えを比較しやすくするために、教師が用意した選択肢の中から選択させたり、学習課題の考えを短い言葉で表現させたりすることも考えられる。以下に例を示す。

学習課題	学習課題に対する考えの例
学習課題：正直になるためには何が大切なのだろう 【4年：正直，誠実「ぼくはMVP」】	勇気 自分に負けないこと 正直に言った後のことを考えること…
学習課題：温かい心とはどのような心なのだろう 【6年：友情，信頼「命のおにぎり」】	困っている人のことを考えられる心 知らない人のことも考えられる心 相手の立場を考えて行動できる心
学習課題：わたしたちにできることは何があるだろう (選択肢の中から選択) 【1年：勤労，公共の精神「わたしにできること」】	料理 皿洗い お掃除 ごみ捨て… 

<学習課題と学習課題に対する考えの例>

第5学年「本当の友だち」『ミレーとルソー』

(A…社会に変革を起こす子ども B…考えを伝えられる子ども)

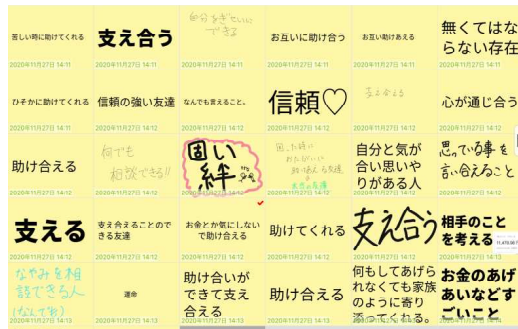
①タブレットに学習課題に対する考えを書く

A：支え合えることのできる友達 B：思っていることを言い合えること

②タブレットで学習課題に対する考えを共有する

一覧にした画像をもとに学習課題「本当の友達とはどのようなものだろう」に対する考えを比較する機会の設定

A…友達の考えに「相手のこと」という言葉が入っていることに気付く



<自他の学習課題に対する考えを一覧にした画像>

<学習課題に対する考えを話し合う様子>

A：ぼくは、相手の気持ちを考えて、支え合える友達が本当の友達だと思うよ。

B：相手の気持ちって大切かもしれないね。わたしは、思っていることを言い合える友達が本当の友達だと思っていたよ。でも、相手の気持ちを考えるからこそ、言わないこともあるし、言うこともあるかもしれないな。

A：相手の気持ちを考えるからこそ言わないのってどんなときかな。

B：相手を傷つけるのが分かっているときは言わないこともあるんじゃないかな。今回のルソーみたいに嘘をつくこともあると思うよ。だから、相手の気持ちを考えた上で、伝えないといけなことを伝えるのが、本当の友達なのかもしれないな。

3 成果と課題

本校道徳科では、「学習課題に対する考えを他者に伝えたり、質問をしたりして、他者の学習課題に対する考えを多面的・多角的な考えにできる子ども」の姿が現れるよう、その授業における具体的な姿や学習指導の工夫について研究を進めてきた。その結果、次のような成果と課題が明らかになった。

○成果

学習課題の解決に向けて、他者の多様な考えに触れた。児童は、その中で、学習課題に対する考えに新たな根拠が付加されたり、よりよい考えに変容されたりして、納得するものにすることができた。そして、自分の考えを他者に伝えたり、他者の考えに質問をしたりしていた。このような関わりによって、他者は、他者の考えのよさや自分の考えの不十分さを自覚し、改めて自分の考えを見つめ直し、新たな根拠が付加されたり、よりよい考えに変容されたりして、より納得する考えにしていた。

これらの姿は、道徳科では、「学習課題に対する考えを他者に伝えたり、質問をしたりして、他者の学習課題に対する考えを多面的・多角的な考えにできる子ども」の姿である。これは、姿が現れるための学習指導の工夫により、児童が、学習課題に対する自己の考えが一面的であることを認識することができたためであると言える。

○課題

児童は、道徳科の問題解決的な学習の中で、自他の考えを比較しながら、自分が納得する考えをもとうとしている。一方で、一単位時間ごとに完結する道徳科の学習だと、関連価値に意識が広がりすぎて、本時のねらいを達成できないことがある。そこで、今後は、関連価値を含めたより柔軟な学習となるように、「運動会に向けて」「いじめをなくすために」「よりよく生きるとは」など大きなテーマを設け、複数内容項目を複数単位時間で扱えるような主題構想に取り組んでいきたい。

【参考文献】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』平成29年7月，廣済堂あかつき出版。
- ・文部科学省『特別の教科 道徳の指導におけるICTの活用について 解説動画』令和2年11月。<https://www.youtube.com/watch?v=TclomUVTYYY>
- ・文部科学省『特別の教科 道徳の指導におけるICTの活用について』令和2年9月。https://www.mext.go.jp/content/20200911-mxt_jogai01-000009772_15.pdf